

**令和2年度**

**産業標準化事業表彰**

**令和2年10月1日**

**経 済 産 業 省**



# 目 次

|                             |                     |    |
|-----------------------------|---------------------|----|
| 1. 産業標準化事業表彰<br>内閣総理大臣表彰    | (個人 1名) . . . . .   | 1  |
| 2. 産業標準化事業表彰<br>経済産業大臣表彰    | (個人 22名、組織 3組織) . . | 2  |
| 3. 産業標準化貢献者表彰<br>産業技術環境局長表彰 | (個人 25名、組織 2組織) . . | 9  |
| 4. 国際標準化奨励者表彰<br>産業技術環境局長表彰 | (個人 5名) . . . . .   | 17 |

## 令和2年度産業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰受賞者

相羽 繁生(あいば しげお)  
株式会社東郷製作所 代表取締役社長 (64歳)

### 【略 歴】

1980年 トヨタ自動車工業株式会社(現トヨタ自動車株式会社) 入社  
1990年 同社 退社  
1990年 株式会社東郷製作所 入社(取締役就任)  
1996年 同社取締役副社長  
1998年 同社代表取締役社長  
2004年～現在 ISO/TC227(ばね) 国際幹事

### 【主な功績】

1. 2004年11月にISO/TC227(ばね)の設立と同時に国際幹事に就任し、現在まで15年以上の長きにわたって当該分野の国際標準化活動を氏が主導し、牽引。2006年に経済産業大臣表彰を受けた後も、同TCの国際幹事として、ばね技術の根幹となる許容差、試験評価、製造加工などの4つの分野の7規格を各国の意見を主導的にとりまとめ、制定に導き、そのうち、日本提案は、5規格と極めて顕著な功績。
2. ばねは、自動車をはじめ、産業機械、構造物など幅広い分野の基盤技術として活用されているが、顧客の一品一様の仕様で、標準化しにくい部品であったことから2000年代になるまで国際標準化の議論はなかった。しかしながら、氏の功績により、数多くの国際規格が成立し、世界的に互換性が確保され、我が国のばね業界の納入先は日系自動車のグローバル化への対応だけでなく、独自の海外市場開拓も可能となった、と同時に、生産、研究開発の効率化、経営資源の有効活用などの効果を得ることができた。その結果、日本のばね産業(金属製ばね)は2014年に国内生産高3,080億円に対して、海外生産高3,290億円となっている。
3. また、氏は中長期的視点からアジア各国との連携強化及び参加国の増大を視野に入れ、グローバルな標準化人材育成にも顕著な功績。例えば、2004年～2012年に延べ11回(日本、インドネシア、ベトナム、タイ)にわたってアジア諸国の標準化人材を対象とした「アジア太平洋ばね標準化研修」などの事業をつうじて、アジア各国がばねの標準化の重要性を認識し、これらの国々が国際標準化活動に参画することに尽力し、結果として、日本提案やJISを反映した国際標準開発につながっている。
4. 1990年代に(一社)日本ばね工業会と欧州ばね連合会(ESF)及び北米ばね工業会(SMI)との間に、氏のリーダーシップにより、それぞれ構築した連携体制は、現在に至るまで継続的に定期会合等を実施することによって相互理解と国際協調が深まった。これにより、確固たる標準化の連携体制を確立。

【敬称略】

令和2年度産業標準化事業表彰経済産業大臣表彰受賞者

個人

| NO | 氏名                | 所属   | 主な功績   |
|----|-------------------|--|--|
| 1  | あらき しゅんじ<br>荒木 俊二 | 一般社団法人日本ゴム工業会<br>ISO/TC45 国内審議委員会 委員長                                | ISO/TC45(ゴム及びゴム製品)国内審議委員会委員長として、延べ200名の委員を擁する14の分科会(年間150回開催)をリードし、ゴム技術分野における国際標準化の新規テーマの発掘活動を精力的に実施。また、自らプロジェクトリーダーとして、ゴム製品中のバイオマス由来成分の含有量を求める方法のISO発行に尽力し、我が国産業の国際競争力強化に貢献。更に建築免震用積層ゴム支承や軟質フォームの抗菌効果といった高機能かつ新市場に資するJIS制定にも尽力。           |
| 2  | いしかわ あつし<br>石川 厚史 | 一般社団法人日本鉄鋼連盟 標準化センター事務局 主査   | 20余年に亘って、鉄鋼分野のISO及びJISでの標準化活動に携わった。TC17(鋼)のコンビーナの経験を経て、国際幹事に就任。同時に機械試験分野の日本代表、エキスパートとしても活動。特に日本提案の鉄鋼のライフサイクルインベントリ計算方法では、規格制定に大いに貢献。これにより鉄鋼製品のユーザーが環境負荷評価をより実態に即して行えるようになった。JISでは、鉄鋼連盟標準化センターの鋼質・機械試験分野の分科会の主査として13件のJIS制定・改正を主導。          |
| 3  | いその ひでき<br>磯野 秀樹  | 富士通オプティカルコンポーネンツ株式会社<br>ビジネス戦略統括部マーケティング部 シニアプロエンジニア(シニアマーケットリサーチャー) | 1996年よりIEC/TC86(ファイバオプティクス)の日本代表として、通信用光部品の標準化活動全般をリードし、2014年からはSC86C/WG4(アクティブデバイス)のコンビーナとして、光トランシーバの集積化・小型化に必要なPIC(光集積回路デバイス)技術の標準化を世界に先駆けて行った。また、IEEE802.3(米国電気電子学会)等の国際標準化活動にも10年以上継続して参画し、多数寄稿するなど超高速光トランシーバの標準化を我が国のリーダーとしてグローバルに推進。 |
| 4  | うじけ ひろやす<br>氏家 弘裕 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 人間情報インタラクション研究部門 行動情報デザイン研究グループ 上級主任研究員  | ISO/TC159(人間工学)/SC4(人間とシステムのインタラクション)/WG12(映像の生体安全性)のコンビーナを約10年間務め、また、映像の生体安全性に関する規格シリーズ(ISO9241の第391部~第394部)のプロジェクトリーダーとして、国際標準化を推進。これらの標準は、3D映像の視覚疲労や映像酔いの社会的認識を拓げることに寄与し、3D映像やHMDの健全な市場整備・産業発展に寄与。                                      |

| NO | 氏名                | 所属  | 主な功績  |
|----|-------------------|---|---|
| 5  | かたおか おさみ<br>片岡 修身 | ダイキン工業株式会社 空調生産本部企画部 役員待遇・国際標準化担当部長               | ISO/TC86(冷凍空調機器)国内分科会の委員長及びISO/IECの6つのWGのエキスパートとして、3規格の改正を主導。地球温暖化係数(GWP)が低い冷媒の実用化につなげた。これにより、我が国において、この冷媒技術を有する企業の市場拡大に貢献するとともに、空調業界の持続的発展、世界の温暖化影響抑制に資する貢献。   |
| 6  | すずき てるひこ<br>鈴木 輝彦 | ソニー株式会社 R&D センター Distinguished Engineer           | ISO/IEC JTC1(情報技術)/SC29(音声,画像,マルチメディア,ハイパーメディア情報符号化)の国際議長を3年にわたって務め、その間、組織改編を主導し、映像音響符号化技術の持続的な国際標準化体制の構築及び我が国の地位向上に大きく貢献。また、ビデオ符号化技術において、4K/8K/HDR(ハイダイナミックレンジ)映像技術の国際標準化を推進し、我が国技術が多数国際標準に採用。   |
| 7  | すずき ともみち<br>鈴木 知道 | 東京理科大学 理工学部経営工学科 教授                               | ISO/TC69(統計的方法の適用)/SC6(測定方法及び測定結果)/WG5(検出能力)のコンビーナを16年、2018年からはSC6の議長を務めるなど、その間、7件の規格の制定・改正を主導。また、これらの活動成果に基づく国際規格をJIS化する委員長及び委員を務め、これまで13件のJISの制定・改正を主導するなど長年にわたり我が国の品質管理の基盤となる標準化に貢献。さらに、9年にわたり日本産業標準調査会基盤技術専門委員会の臨時委員を務め、多数のJISの審議に貢献。 |
| 8  | すみかわ おさむ<br>角川 修  | 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 茶業研究監            | 日本産の高級緑茶である玉露や抹茶がISO規格の「緑茶」の基準値から外れないよう防衛することに貢献。日本の緑茶生産業界が国際標準化活動に積極的に参加するよう関係者の調整に尽力するとともに、ISO/TC34(食品専門委員会)/SC8(茶分科会総会)の日本開催(2015年)を成功させるなどの活動を通じ、主たる輸出品である「抹茶」規格策定コンビーナに就任した。これらの活動は、近年の緑茶輸出増大に寄与すること大。                               |
| 9  | せき よしかず<br>関 喜一   | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 デジタルアーキテクチャ推進センター 情報標準化推進室 室長代理 | 2011年よりIEC/SC 3C(機器・装置用図記号)の国際幹事として、電子・電気製品等に表示する約300件の機器・装置用図記号の開発に寄与し、言語の異なる世界各国のユーザーのアクセシビリティ向上に多大に貢献した。さらに、ISO/IEC JTC 1/SC 35(ユーザーインタフェース)のプロジェクトエディタ及び国内委員長として、障害者の支援技術の国際標準化に数多く貢献。  |

| NO | 氏名                 | 所属   | 主な功績   |
|----|--------------------|--|--|
| 10 | たかはし たけひこ<br>高橋 健彦 | 学校法人関東学院大学 名誉教授                                  | IEC TC64(電気設備及び感電保護)の国内対策委員長を23年間にわたり務め、IEC規格の国内における審議、とりわけJISや法令の技術基準との違いを可能な限り整合化する観点での標準化に尽力。電気事業法に基づく電気設備技術基準の国際化委員会の主査及び委員長としてIEC60364(建築電気設備)を同技術基準に取入れることに尽力するとともに、7つの電気設備分野のJIS原案作成委員長として制定及び改正を主導、同分野における感電保護対策等に貢献。              |
| 11 | たかはし ひでかず<br>高橋 英和 | 国立大学法人東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 医歯理工学専攻 口腔機材開発工学分野 教授 | ISO/TC106(歯科)において17年間にわたりエキスパートとして参画するとともに、8年間WGコンビナー、6年間SC国際議長を務め、歯科材料及び歯科機器の国際標準化に尽力。特に「歯科用CAD/CAMシステム」を中心に5件の規格制定と1件の改正を主導し、当該分野において、日本の意向を反映した国際標準化に貢献。また、同TC傘下の国内委員会委員長、日本歯科医師会の器材部会・材料規格委員会委員を務め、歯科材料器械のJISの制定・改正案の審議を主導。            |
| 12 | たなか ただし<br>田中 正    |  | ISO/TC123(平軸受)国内委員長を12年にわたり務め、滑り軸受の設計、研究及び品質管理等の業務経験から、8件の規格制定と9件の改正を国際会議で提案し主導。日本の滑り軸受業界の設計技術や材料の国際規格化に成功し、日本の滑り軸受業界のグローバル化への功績大。また、アジア諸国と連携、ISO/TC123/SC8(滑り軸受の計算法及び応用)の設立に尽力し、日本の幹事国の取得を主導した点においても、貢献は大。                                |
| 13 | たなべ しんいち<br>田邊 新一  | 早稲田大学理工学術院創造理工学部 建築学科 教授                         | ISO/TC146(大気の状態)/SC6(室内空気)において20年以上にわたり貢献。2014年からは、SC6の国際議長として、気候が異なる我が国の建材使用環境などが採択されるなど、我が国の産業界への貢献大。また、2007年からは車内部品及び材料からの放散を踏まえた車室内空気に関するSC6とTC22(自動車)とのジョイントWG(車室内のVOC試験法)を設置するなど環境規制対策にも貢献。さらに、これらの分野のJIS原案作成委員会委員長なども務め、JISにおいても尽力。 |

| NO | 氏名                | 所属  | 主な功績  |
|----|-------------------|---|---|
| 14 | たにつ ゆきお<br>谷津 行穂  | 谷津 IT コンサルティング 代表                                   | ISO/IEC/JTC 1(情報技術)/SC 7(ソフトウェア及びシステム技術)国内対策委員長を10年務め、国内意見のとりまとめ及び国際標準化に尽力。特に、ソフトウェア中心システムの基盤となるISO/IEC25000 シリーズ(システム及びソフトウェア製品の品質要求及び評価)をはじめ10件の制定について、日本提案を最大限反映することに貢献。また、同分野のJIS化についても10件の制定・改正に貢献し、国内標準化にも功績。                           |
| 15 | たんぼ まさひろ<br>反保 昌博 | 株式会社村田製作所 企画管理本部 市場渉外部 市場渉外課 エキスパート                 | 5年間にわたり IEC/TC40(電子機器用コンデンサ及び抵抗器)国内対策委員長及び IEC/TC40/WG36(電子部品などの包装)コンビーナを務め、日本が得意とする超小形部品 0201 サイズ(0.25mm×0.125 mm)の電子部品に関する2件の国際規格を改正し、スマートフォンや情報端末機器等の小形多機能化及び超小形部品市場の拡大に寄与。また、超小型部品の 0402 サイズ(0.4mm×0.2 mm)以下の包装に関する国際規格の改正においても指導力を発揮。    |
| 16 | とこなみ しんじ<br>床次 眞司 | 国立大学法人弘前大学 被ばく医療総合研究所 所長・教授                         | IEC/TC45(原子力)/SC45B(放射線防護)/WG10(ラドン及びラドン壊変生成物測定装置)、ISO/TC85(原子力)/SC2(放射線防護)/WG17(放射能測定)及び ISO/TC147(水質)/SC3(放射能)の3分野においてエキスパート13件、プロジェクトリーダー4件、コンビーナ2件を歴任。当該分野の研究成果に海外の評価が極めて高く、国際的人脈に基づき、国際標準化を主導。特に、2011年福島原発事故の経験を国際規格に反映していることは、国際的に高く評価。 |
| 17 | なかざわ たけし<br>中沢 健  | 本田技研工業株式会社 二輪事業本部ものづくりセンターコンポーネント開発部 電装開発課 チーフエンジニア | ISO/TC22(自動車)/SC38(モーターサイクル&モペッド)の国際議長を3年間にわたり務め、特に、国際標準を制定する際、二輪車を適用範囲(スコープ)に加える際のプロセスを2017年TC22総会で決議し、今後増加する先端技術を最適な形で二輪車へ取り込むことを可能とした功績は大。また、同SCのWG3(二輪機能安全)コンビーナとして自らSC32/WG8(機能安全)にプロジェクトリーダーとして参画し、二輪車の機能安全に特化した規格開発を主導するなどその貢献は大。      |

| NO | 氏名                 | 所属                                | 主な功績  |
|----|--------------------|-----------------------------------|---|
| 18 | なかむら えいこ<br>中村 栄子  | 横浜国立大学<br>名誉教授                    | 11年にわたり JIS K 0102 工場排水試験法の見直し、改正に係る各種委員会の委員長、分科会長及び委員を歴任し、自ら調査、データ収集、試験実施等を行い、数次にわたる規格改正に尽力。これらの改正は分析における溶媒等の有害物質使用の低減、分析時間の短縮に資するものであり、その功績は大。また、ISO/TC147(水質)/SC2(物理・化学・生物化学的測定法)の国内対策委員会の委員及びエキスパートとして、上記 JIS の内容を ISO へ提案するなどにも尽力。   |
| 19 | ひらた まさゆき<br>平田 眞幸  | 富士ゼロックス株式会社 国際<br>認証センター<br>センター長 | IEC/CAB(適合性評価評議会)の日本代表委員として、国内適合性評価システム委員会の意見収集、反映を行うとともに、国内規格作成委員会への適合性評価の啓発活動や、JICA(独立行政法人国際協力機構)電気電子製品の貿易促進研修、経済産業省補助事業活動等を通じた ASEAN への適合性評価レクチャーなど、適合性評価に関する積極的な普及、啓発活動を推進。   |
| 20 | まつはし りゅうじ<br>松橋 隆治 | 国立大学法人東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 教授   | 12年にわたり ISO/TC207(環境管理)の国内対策委員長として国際標準化活動に貢献。環境分野は種々の認証の対象となる規格であるため、産業界及び認証機関など広範な利害関係者の意見を調整し、規格開発の議論をリード。さらに、2008年からは、ISO/TC301(エネルギーマネジメント及び省エネルギー量)の国内対策委員長及び ISO/TC322(サステイナブルファイナンス)国内対策委員を務めるなど、環境・エネルギー分野の国際標準化活動に大きく貢献。         |
| 21 | もり やすしげ<br>森 康維    | 同志社大学 理工学部 化学システム創成工学科 教授         | TC24(粒子特性評価及びふるい)/SC4(粒子特性評価)の数多くの WG に 18 年以上参画し、大きな貢献。とりわけ、氏の基礎研究に必要な粒子特性評価技術の知識に基づく、粒子径測定装置の評価に必要な標準粒子の規格化では、プロジェクトリーダーとして活躍し、国際規格の制定に主導的な役割を果たすとともに、統合化した JIS の制定にも尽力。これにより、粒子特性評価装置を開発・販売する国内企業にとって、国内外に同一仕様の装置を販売することが可能となり、その功績は大。 |

| NO | 氏名                | 所属                  | 主な功績   |
|----|-------------------|---------------------|--|
| 22 | よしまら しんじ<br>吉村 慎二 | 株式会社シマノ<br>品質管理部 参与 | ISO/TC149(自転車)/SC1(自転車と主要付属部品)のコンビーナ、プロジェクトリーダー及びエキスパートとして国際標準化を推進し、2つの国際規格(ISO4210(自転車-安全要求事項及び試験方法)、ISO8090(各国言語による自転車部品名称))及び1つの技術仕様書を日本主導で策定。また、JIS原案作成委員会の作業部会長として、国際統合化したJISの原案作成にも尽力し、自転車製品の安全性向上と消費者保護に貢献。 |

[五十音順、敬称略]

## 組織

| NO | 組 織 名        | 主 な 功 績  |
|----|--------------|--|
| 1  | 住友電気工業株式会社   | 1948年から電線に関する標準化に携わり、IEC/TC20(電力ケーブル)、IEC/TC7(架空電気導体)、IEC/TC21/JWG7(フロー電池システム)等にエキスパートを継続的に輩出し、電力分野を中心に幅広いインフラの国際標準化活動に貢献。特に、日本が初めてIECのTCレベルの幹事国となったTC90(超電導)の国際幹事をこれまで30年以上務め、超電導製品の普及、市場拡大に尽力。また、IEC評議会委員を輩出するなど、国際標準化活動における我が国の地位向上にも尽力。                                |
| 2  | 日本電信電話株式会社   | ISO/IEC JTC1(情報技術)の各SC、特にSC29(音声、画像、マルチメディア、ハイパーメディア情報符号化)、SC27(セキュリティ技術)及びSC25(情報機器間接続)の国際標準化活動に長年にわたり貢献。また、プロジェクトエディタ、国内対策SC委員長、WG主査など多くの標準化人財を輩出し、規格制定及び組織運営を主導。さらに、世界に先駆けの国際規格に基づく製品の市場展開、講習会企画、解説本出版等を継続的に行い、標準化技術の国内外への普及・啓発に貢献。                                     |
| 3  | 株式会社 mil-kin | 同社が開発したスマートフォンを利用し簡易に細菌類を観察できる光学機器「mil-kin(見る菌)」に関して、新市場創造型標準化制度を活用し、2019年JIS B 7271(携帯形微生物観察器)として制定された。携帯性が良く、プレパラートを必要とせず、また、試料の調整、培養の必要がなく、試料を直接乗せて観察できるために現場ですぐに観察が可能となることから、食品加工施設、保健所、歯科医院等で広く利用されている。JIS制定に伴い高い信頼性を得られたことにより、同機器の販売網は世界20カ国以上に広がり、標準化により新市場を拡大した好例。 |

令和2年度産業標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

個人

| NO | 氏名                | 所属  | 主な功績  |
|----|-------------------|---|---|
| 1  | あらい とおる<br>新井 亨   | 株式会社 JERA<br>O&M エンジニアリ<br>ング本部 東日本<br>O&M エンジニアリ<br>ング営業部 部長 | ISO/TC268(持続可能な都市とコミュニティ)/<br>SC1(スマート都市インフラ)/WG5(電力プラント)<br>のコンビーナを3年にわたり務め、この間、新市<br>場創造型標準化制度を活用した国際標準化の第<br>1号として2020年に制定されたISO37160(スマ<br>ート都市インフラ-電力インフラ-火力発電イ<br>ンフラの質の評価方法並びに運用及び管理のた<br>めの要求事項)において、日本提案を最大限反映<br>しつつ、各国のコンセンサスを形成する会議運<br>営を効率的に行うなど、規格開発プロジェクトを<br>主導し国際規格化に大きく貢献。 |
| 2  | あらき のりゆき<br>荒木 則幸 | 日本電信電話株式<br>会社 研究企画部<br>門 R&D 推進担当<br>担当課長                    | 12年にわたり光ファイバ技術の国際標準化に関<br>与し、日本の優れた光ファイバ技術による世界的<br>な光通信網の普及及び市場拡大に貢献。2018年<br>からはIEC/TC86(ファイバオプティクス)の国内<br>幹事を務め、国内対策委員会の運営及び国際会<br>合の日本招致を主導するなど、日本のプレゼン<br>ス向上に貢献。また、大学における標準化に関<br>する出前講義を実施し、継続的に企業・学生・<br>大学関係者等に向けた標準化活動の普及と人材<br>育成や啓発活動にも尽力。  |
| 3  | おがわ しげたか<br>小川 茂孝 | 有限会社アイシー<br>ティーリンク 取<br>締役                                    | ISO/IEC JTC1(情報技術)/SC29(音声、画像、マル<br>チメディア、ハイパーメディア情報符号<br>化)/WG1(静止画像符号化:JPEG)の標準化活動<br>に19年にわたり携わり、ISO/IEC 15444-5(JPEG<br>2000)をはじめとする複数の規格化をプロ<br>ジェクトエディタとして主導。符号化・復号を<br>入力順に行うよう同規格を修正することで、小<br>型デジタルカメラのHDR化が可能となるほか、<br>符号化・転送(圧縮性能)及び復号の全ての処<br>理が高速化され、同技術は遠隔医療等への活<br>用が期待。       |

| NO | 氏名                | 所属  | 主な功績   |
|----|-------------------|---|--|
| 4  | おぐら のぶゆき<br>小倉 信之 | 株式会社日立製作所 制御プラットフォーム統括本部 部員                           | IEC/TC65(工業用プロセス計測制御)を中心とするスマート・マニファクチャリング関係の9つのワーキンググループにエキスパートとして参画し、議論をリードし、日本の存在感を高めた。これらの活動を通じて日本企業の海外大型案件の受注にも貢献。さらに ISO/IEC JWG21(スマート・マニファクチャリング参照モデル)において日本提案の参照モデルを含めた国際規格文書化に成功し、一国主導の様相を呈していた同分野において多大な貢献。 |
| 5  | かねこ なおじ<br>金子 尚司  | 株式会社デンソー 電子PFハードウェア開発部 車載ネットワーク開発室<br>Project Manager | ISO/TC22(自動車)/SC31(データ通信)/WG3(車両内通信分科会)においてクロック拡張ペリフェラルインターフェース(CXPI)に関する国際規格の制定・改正にプロジェクトリーダー及びエキスパートとして、3年にわたり当該WGの議論をリード。こうした活動を通じて、ヒューマンマシンインタフェースシステム系に係るワイヤハーネスのコスト削減による日本メーカーの市場の確保及び国内自動車業界全体の発展に貢献。           |
| 6  | かわにし てつや<br>川西 哲也 | 国立研究開発法人 情報通信研究機構 ネットワークシステム研究所 研究統括                  | IEC/TC103(無線通信用送信装置)/WG6(光ファイバ無線送信装置)の発足当時から14年にわたり光無線融合領域の装置測定技術に関する国際標準化にエキスパート及びプロジェクトリーダーとして参画。この間、実用化に必要なデバイス測定技術に関して3件の成立に貢献するとともに、マルチベンダー化に不可欠な当該測定技術の普及に尽力し、ファイバ無線送信装置を用いた高速鉄道向け高速通信システムや滑走路監視レーダーの実現に大きく貢献。   |
| 7  | きた ひでお<br>喜多 英雄   | スガ試験機株式会社 校正部 部長                                      | プラスチックの基礎的な性能評価となる耐候試験や色彩関係の国内外の標準化に10年にわたり関与。特に、ISO/TC61(プラスチック)/SC6(老化、耐薬品性、耐環境性)/WG2(光暴露)のプロジェクトリーダーとして、プラスチック材料の劣化に作用する波長を見極めるために行われる分光老化試験のISO規格の制定に尽力。この制定により、日本のプラスチック業界において光安定性の高い製品材料の開発及びその性能・品質の国際的証明に貢献。   |

| NO | 氏名                  | 所属  | 主な功績  |
|----|---------------------|---|---|
| 8  | きのした じゅんいち<br>木下 順一 | 国立大学法人大阪大学 レーザー科学研究所 招聘教授                                 | IEC/TC110(電子ディスプレイ)のPT62595(ディスプレイライティングユニット)のコンビーナを12年間務めた。また、2012年にWG10(レーザーディスプレイ)の立上げに尽力し、副コンビーナとして同グループの活動を発展に貢献。両活動において、7件のプロジェクトリーダーを務め、そのうち4件がISとして発行。これらの国際規格に準拠する日本製の測定器が上市されるなど、産学官の連携基盤の構築及び国際標準化の普及に貢献。                    |
| 9  | きんの いくろう<br>金野 郁郎   | 株式会社UL Japan<br>コンシューマーテクノロジー事業部<br>製品安全グループ<br>スタッフエンジニア | 21年間にわたりパソコン、プリンタ、テレビ、カメラなど幅広い製品カテゴリを扱う安全規格であるIEC/TC108(音響・映像、情報技術及び通信技術機器の安全性)国内対策委員会委員として、国際標準化に貢献。2014年からはエキスパートとして数多くの規格開発に主導的に参加し、国内製造者などの多くの日本提案を反映。また、TC96(変圧器、リアクトル、電源装置等)において、IEC61558シリーズ(当時18件)のメンテナンス及び10件のJIS原案作成に貢献。      |
| 10 | こが やすこ<br>古賀 靖子     | 国立大学法人九州大学 大学院人間環境学研究院 准教授                                | ISO/TC205(建築環境設計)/WG7(屋内視環境)などで、プロジェクトリーダー及びエキスパートを務め、その間、建物に設ける採光用開口と視環境の設計において、3件の国際規格作成・改正で日本提案を反映することに貢献。また、ISO/TC205からISO/TC274(光と照明)及びCIE(国際照明委員会)へのリエゾン代表を担当し、これらの活動において日本の地位を確固なものとするとともに、国際標準化活動における日本の建築・照明業界の競争力向上に貢献。       |
| 11 | こじま さとし<br>小島 智     | コジマイーデザイン<br>オフィス 代表                                      | IEC/TC91(電子実装技術)/WG12(実装設計技術)のコンビーナとしてIEC 61188-6-4(表面実装部品外形図の作成指針)、WG13(設計記述言語)のコンビーナとしてIEC/TR 62856(設計言語鳥瞰図)の国際標準を取り纏めた。日本提案を国際標準にすることで日本のエレクトロニクス業界の卓越した設計技術力を示し国際競争力強化に大いに貢献。また、国内対策委員会の副委員長及び主査として日本提案の発掘と規格化を主導、エレクトロニクス業界の発展に寄与。 |

| NO | 氏名                 | 所属  | 主な功績  |
|----|--------------------|---|---|
| 12 | さいとう あきひこ<br>齋藤 章彦 | 大同特殊鋼株式会社 技術開発研究所 主席研究員   | IEC/TC51(磁性部品、フェライト及び圧粉磁性材料)/WG10(EMC 対策用磁性材料及び部品に関する標準化)のコンビーナ及びエキスパートとして電磁両立性(EMC)対策用磁性材料の実用特性・材料特性の測定法に関する日本提案の国際規格の制定、改正等に尽力し、日本の産業競争力強化の貢献は大。また、IEC/SC46F(無線及びマイクロ波受動回路部品)/WG1(電波吸収体のミリ波帯における電波吸収特性測定方法)のエキスパートとして、IEC規格及びJIS化に尽力。 |
| 13 | さかきた はじめ<br>榎田 創   | 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 エレクトロニクス・製造領域 電子光基礎技術研究部門 先進プラズマプロセスグループ 研究グループ長 | IEC/TC 62(医用電気機器)/SC62D(医用電子機器)/WG 34(低エネルギー電離ガス止血機器)のコンビーナとして、低エネルギー電離ガス止血機器に関する日本からの提案を主導的に行い、国際標準の発行に貢献。この規格において、患者や医師などの安全性確保のために必要となる技術仕様を明確化するための試験方法が規定され、世界共通の規格に基づく国際認証が可能となり、日本製品の輸出拡大の道筋づくりに大きく寄与。                           |
| 14 | たかはし ひろゆき<br>高橋 宏行 | ヤマハ発動機株式会社 EM技術統括部 EM戦略部 開発企画グループ 主査                                | ISO/TC22(自動車)/SC38(モペッド&モータサイクル)/WG2(電動二輪車)において、日本提案「電動二輪充電時安全要件」(ISO18246)のプロジェクトリーダーとして審議をリードし、日本の主導的立場を確立し、制定に結びつけた功績は大。また、充電器側の規格もIECに新規提案し、プロジェクトリーダーとして日本主導に貢献するとともに、ISO及びIEC間のリエゾンオフィサーとして両社の連携をつうじて電動二輪車の充電安全確保に貢献大。            |
| 15 | たけなか<br>竹中 みゆき     | 株式会社日立ハイテク アナリティカルソリューション事業統括本部事業戦略本部 主管技師                          | 15年にわたり IEC TC111(環境配慮)の副議長、同WG3(有害物質試験法)のコンビーナ他、電気・電子分野の環境課題や有害物質に関する国際標準化に貢献。特にRoHS指令(電気・電子製品中の鉛やカドミウムなどの有害物質の使用制限に関する欧州の法律)において実態上、強制となる製品中の有害物質の測定方法の規格化(IEC 62321)で、非現実的とならず、かつ、環境配慮を推進するよう尽力し、電気・電子産業界の国際競争力確保への貢献大。              |

| NO | 氏名                 | 所属   | 主な功績  |
|----|--------------------|--|---|
| 16 | たなか ひろかず<br>田中 宏和  | 公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科 教授                                  | 2015 年の IEC/SyC(システム委員会)AAL(自立生活支援)の設立当初より、現在まで WG1(ユーザフォーカス)のコンビーナを務め、高齢者の自立生活支援技術に関する国際標準化活動に貢献。また、IEC/TC124(ウェアラブルエレクトロニックデバイス及びテクノロジー)エキスパートなどを務め、日本の優れた技術を国際標準に反映することに成功し、AAL 活用事例を具現化するための医療・ヘルスケア分野の Iot 化におけるデータ利活用の進展に貢献。                      |
| 17 | つじ はじめ<br>辻 創      | 一般財団法人カケンテストセンター 技術部 技術開発室 室長                                | 2015 年から、ISO/TC94(個人安全-個人用保護具)/SC13(防護服)及び SC14(消防隊員用防護装備)のプロジェクトリーダー、エキスパートとして防護服関係の国際規格化に尽力。特に、職業従事者だけでなく広範囲の着用者の視認性防護服に関する規格は、この分野において初の日本提案であり、制定に向けた功績は大。また、2016 年から 4 年間という短期間で防護服関連の国際規格の JIS 化において 12 件の制定・改正の原案作成の実質的取りまとめを行い、その功績も大。          |
| 18 | どい なおし<br>土居 直史    | ルネサス エレクトロニクス株式会社 IoT・インフラ事業本部 共通 EDA 技術開発統括部 デジタル設計技術部 主任技師 | IEC/TC47(半導体デバイス)/SC47A(集積回路)/WG2(モデリング)コンビーナとして、IEC 62433 シリーズ(半導体 EMC シミュレーション・モデリング手法)など 5 件の国際規格化に多大に貢献。また、同 WG9(EMC 測定法)エキスパート・IEC/TC47 国内対策委員長として、日本意見の規格への反映のとりまとめなどにも尽力。これらは、半導体の民生機器開発における電磁両立性(EMC)ノイズ設計・対策の上流化を加速させ、設計開発期間の短縮、開発コスト低減に大きく寄与。 |
| 19 | なかじま やすなり<br>中島 康成 | 東日本旅客鉄道株式会社 国際事業本部 パリ事務所 所長                                  | これまで製品規格が主流であった鉄道分野において、初めてプロジェクト計画に関する規格を日本から提案するにあたり、各国と調整を行い、ISO/TC269(鉄道分野)/WG3(鉄道プロジェクト計画)のコンビーナとして ISO/TR 21245(鉄道プロジェクト計画策定手順-鉄道プロジェクト計画のガイダンス)の発行に成功。対訳版の発行やアジア諸国での普及、この規格に基づく国内外の人材育成にも尽力し、日本の鉄道の標準化活動への貢献大。                                   |

| NO | 氏名                 | 所属  | 主な功績   |
|----|--------------------|---|--|
| 20 | にしじま げん<br>西島 元    | 国立研究開発法人<br>物質・材料研究機構<br>機能性材料研究拠点<br>高温超伝導線材グループ 主幹<br>研究員 | 9年にわたり IEC/TC90(超電導)/WG3(酸化物超電導線の臨界電流測定法)及び同 WG7(ニオブ3すず超電導線の臨界電流測定法)コンビーナとして貢献。特に IEC 61788-26(REBCO 超電導線材の臨界電流試験方法)の制定では、予備実験や国内及び国際ラウンドロビン試験(試験所間比較)を通じて、高温超電導実用化に不可欠な性能測定方法を確立。また、VAMAS(新材料及び標準に関するベルサイユプロジェクト)/TWA16(超伝導材料)議長としても貢献。 |
| 21 | はたやま みちのり<br>畑山 満則 | 京都大学 防災研究所 教授   | ISO/TC204(高度道路交通システム(ITS))/WG3(ITS データベース技術)における基本的な地理データファイル(GDF)の国際標準化活動において中心的な貢献。特に ISO20524(地理データファイル5.1, 2020年発行)ではプロジェクトリーダーとして、GDFと日本デジタル道路地図協会の地図データ記述標準方式との親和性を高めるために、効率的な処理を可能にする拡張方式を提案し、国際的な合意形成に成功したその功績は大。                |
| 22 | みなかみ たかし<br>水上 敬   | リオン株式会社技術開発センター<br>要素技術開発室<br>微粒子センサ開発G 副参事                 | 約9年間にわたり ISO/TC24(粒子特性評価及びふるい)/SC4(粒子特性評価)のメンバーとして国際規格開発に貢献。特に WG9(光相互作用による単一粒子測定法)のシャドウコンビーナ、プロジェクトリーダー及び国内対策主査として、粒子特性評価法に関する国際規格3件及びJIS2件を制定。結果、マイクロメートル粒径域に対応した気中パーティクルカウンタの校正サービスの確立と、製薬工場などでの清浄度管理への貢献は大。                          |
| 23 | もとばやし こうた<br>元林 浩太 | 国立研究開発法人<br>農業・食品産業技術<br>総合研究機構 本部<br>知的財産部 国際標準化推進室 室長     | ISO TC23(農業機械)/SC19(農業エレクトロニクス)のエキスパートなどを10年にわたり務め、ISO 11783(トラクタと装着作業機の通信規格:通称 ISOBUS)を中心に、農業機械の制御通信に関する国際規格19件の制定、改正に貢献。さらに ISOBUS 認証事業の国際活動にも積極的に参加し、国内産業界への普及・啓発活動、技術開発及び指導に取り組んだ。氏の功績により、ICTを活用したスマート農業を社会実装する上で不可欠な基盤として寄与。        |

| NO | 氏 名                 | 所 属   | 主 な 功 績  |
|----|---------------------|---|--|
| 24 | やがさき よういち<br>矢ヶ崎 陽一 | ソニー株式会社<br>R&D センター 基<br>盤技術研究開発フ<br>ィールド<br>TokyoLaboratory18<br>PrincipalEngineer | 約 30 年にわたり、ISO/IEC JTC1(情報技<br>術)/SC29(音声、画像、マルチメディア、ハイパ<br>ーメディア情報符号化)/WG11(動画像符号化)の<br>エキスパート、国内対策委員会幹事等として、<br>MPEG-4 AVC などの動画圧縮技術に関する国際標<br>準化活動に貢献。また、産業界からの要望を集め、<br>アプリケーションに合わせて実装コストを抑え、<br>かつ、互換性を確保する規格開発にも貢献。                               |
| 25 | やぎ まこと<br>八木 誠      | 日本信号株式会社<br>交通システム統括<br>技術部 CBTC 技術部<br>部長  | IEC/TC9(鉄道用電気設備とシステム)PT 62912-<br>2(ばね式信号用リレー)のプロジェクトリーダー<br>として IEC 62912-2(ばね式信号用リレー)の制定<br>を主導。欧州主導の重力落下式信号用リレーに対<br>して、日本で主流のばね式リレーを国際規格とし<br>て成立させ、日本の鉄道信号業界の国際競争力強<br>化に大いに貢献。また、同 TC9 の国内委員会委<br>員、列車制御無線要求決定手順の国内作業部会委<br>員など、我が国の鉄道技術の国際標準化に尽力。 |

[五十音順、敬称略]

## 組織

| NO | 組 織 名             | 主 な 功 績   |
|----|-------------------|---|
| 1  | 一般社団法人日本医療機器産業連合会 | 医療機器の品質、リスク低減において最も重要な規格のひとつである ISO14971(医療機器ーリスクマネジメントの医療機器への適用)に関して日本の広範な利害関係者の意見をとりとめ、規格に反映。その他 9 件の国際規格又は TR (技術報告書) の制定、改正及び 8 件の JIS の制定、改正に尽力するなど、我が国の医療機器の国際競争力強化に寄与。また、これらの規格に関する説明会を開催し、参加者は医療機器メーカー、認証機関など約 1200 名にのぼるなどの普及にも貢献。         |
| 2  | 静岡県立浜松城北工業高等学校    | 2000 年に ISO14001(環境マネジメントシステム)に基づく「環境教育宣言」を制定し、学校独自の「技術と環境」(学校設定科目：必修 1 年生週 2 時間)他を教育課程として位置づける中、2008 年からは ISO14001 の教育・普及啓発活動に取り組み、2010 年 2 月、全国の高等学校に先駆け ISO14001 内部監査員養成研修会(受講生徒 3 名)をスタート。現在は、1189 名の生徒が ISO14001 内部監査員研修の修了証書を取得し、地域の企業、社会に貢献。 |

令和2年度国際標準化奨励者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

| NO | 氏名                 | 所属  | 主な功績  |
|----|--------------------|---|---|
| 1  | えんどう ゆい<br>遠藤 維    | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 人工知能研究センター デジタルヒューマン研究チーム 主任研究員 | ISO/TC159(人間工学)/SC1(人間工学の一般原則)/WG5(人間工学プロセス規格)において、エキスパートとして7年間参画し、人間工学設計分野の国際標準化に貢献。特に、ISO 27501:2019(人間中心組織—管理職向けガイダンス)のエディタを務めるとともに、国内対策委員会において国内意見をとりまとめ、この規格の適用範囲に人間中心の理念を体系的に取り入れた設計を行う組織活動を盛り込むなど、貢献大。                               |
| 2  | ちば しょうた<br>千葉 翔太   | 一般財団法人日本品質保証機構 認証制度開発普及室 主査                                 | ISO/CASCO(適合性評価委員会)において、WG49のISO17000(適合性評価-用語及び一般原理)の改正及びWG52のISO/TR17032(適合性評価-プロセス認証スキームのガイドライン及び例)のエキスパートとして精力的に各国意見を分析するとともに、国内における関係組織へのヒアリングを行い、国際規格への反映に尽力。さらに、IEC/SyC(システムコミティ) AAL(自立生活支援)/WG3(適合性評価)においても、エキスパートとして日本意見の反映に尽力。   |
| 3  | つきやま かずなり<br>築山 和成 | オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー 技術開発本部 第1技術部 主査          | ISO/TC199(機械類の安全性)/WG3(統合生産システムの安全性)において、日本提案のICT機器を組み合わせた、新たなリスク低減方策を規定した標準報告書ISO/TR 22053(支援的保護システム)のプロジェクトリーダーとして原案作成及び議論をリード。また、同WG3において進められているISO11161(統合生産システム—基本要素事項)の改正にもエキスパートとして積極的に貢献。   |
| 4  | のはら ゆきこ<br>野原 由樹子  | アゼアス株式会社 事業開発部 担当課長   | 17年にわたりISO/TC 94(個人安全-個人用保護具)/SC 13(防護服)の国内作業部会統括事務局として、国際標準化活動に貢献。2007年からは同SC13のエキスパートに就任し、2011年、日本初となる国際会議を実施。また、JIS規格をISO規格と整合する必要から、2003年から防護服分野のJIS規格制定・改正長期計画を作成し、延べ54件の原案作成作業に尽力。さらに9年以上にわたり日本産業標準調査会臨時委員として労働安全用具技術分野におけるJISの審議に貢献。 |

| NO | 氏 名              | 所 属                            | 主 な 功 績   |
|----|------------------|--------------------------------|---|
| 5  | ひらさわ りょう<br>平澤 遼 | 東京地下鉄株式会社 鉄道本部工務部 丸ノ内線工務区 工務助役 | ISO/TC269(鉄道分野)/SC1(インフラストラクチャ)/WG 3(レール溶接)の設立とともにWG事務局に就任、日本の固有技術の国際規格化に向け、WG運営や議論を主導するコンビーナを支援。また、同SC1及びISO/TC17(鋼)/SC15(鉄道レール、レール締結装置、車輪及び輪軸)の複数のWGエキスパート及び国内対策委員会の事務局などを務め、日本の鉄道技術の国際規格への反映に貢献。 |

[五十音順、敬称略]